

令和5年度第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和5年6月21日（水）
◎開催日時 令和5年6月26日（月） 午後1時30分～午後3時
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原教育長職務代理者、田畑委員、原田委員、黒河内委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 三澤教育次長、宮下学校教育課長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、福與指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

教育次長

定刻となりましたので、ただいまから今年度第1回目の総合教育会議を開会いたします。はじめに白鳥市長からご挨拶をいただきます。

2 市長あいさつ

市長

毎日暑い日が続いており、台風2号で災害もあったわけですが、その後はあまり雨も降らないような梅雨となっています。

そうした中、先日、前々から視察したかった伊宝館に行って、子どもたちの取り組んでいる様子を見せてもらい、意見交換をしてみました。また、中間教室にも行って様子を見たり、現場に行かなければわからないようなことも肌感覚としてわかりましたし、そうした子どもたちだけではなく、親御さんの話も聞いたということで収穫のある視察をすることができました。

今日は総合教育会議ということで、ご参加いただきましてありがとうございます。新型コロナウイルス感染症が5類となり、学校生活も徐々にコロナ以前に戻りつつあります。そうした中で、行事も制限なしで開催できるといながらもブランクの3年間があり、元通りにすぐに戻ることはできないと思っております。子どもたちが元気に、また学校でも家庭でも以前のように戻ると期待しています。

伊那小学校をはじめとする総合学習、また伊那西小、新山小、高遠北小の小規模特認校の取り組み、また ICT 活用教育など伊那市の教育は全国から注目をされており、そうした環境で子どもを育てることで、教育や保育園による移住は増えているということも嬉しいわけであります。

今日の総合教育会議の中では古文書のデジタル化などについて意見交換をしたいと思っております。総合教育会議が実りのあるものになりますように、活発な意見交換をお願い申し上げます。

教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

本年度第1回目の総合教育会議となります。この会では市長が子どもたちの生活や市民の皆さんの学びに近いところの課題について共に考えてくださり、私どもにとっても大変ありがたい機会となっています。

つい先日、市長お話しご挨拶の中で触れていただいたとおり、市長が、子どもたちがいるところに出かけてくださりました。今、現場が直面している課題について、この3年半のコロナ禍の間に深刻化しているということもあります。今年の運動会や宿泊行事などが計画を修正しながらもほぼ取り組んでいます。

深刻化して不登校になってしまっている子どもをしっかり捉えていくことは、なお一層大事になっています。

本日は、教育委員会の運営方針からデジタルアーカイブを柱にしまして、意見交換をしたいと思っております。成果を整理しながら、また課題を解決する取組についてはどうなるのが良いか、そうしたことについて考えられる機会としたいと思っております。本日は、よろしく申し上げます。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思っております。

ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) 令和5年度伊那市教育委員会運営方針について

教育長

例年、第1回の総合教育会議のお席をお借りして、教育委員会の運営方針についてその概要について、大事に考えているところについてお話をさせていただいております。資料をご覧いただきながらお聞きいただければと思います。

はじめに、伊那市の教育理念「はじめに子どもありき」に立ち、学ぶ人に発し学ぶ人に還る、子どもに発し子どもに還る、そうした教育活動を作っていく、そして、次に、子どもたちにつける力として、自分の学力に対する自信と明記をしております。次のところは、令和元年度、これコロナ前でございますけれども、私達がこの中に新たにに入れてきたいいくつかのワードがあります。令和元年に「一人に確かに届く」、令和3年度には「日常的で本質的な取組の充実」、令和4年度には「学びを止めない」「給食を止めない」、本年度には「生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利」を持つ存在として。そこに立ち返りながら、子どもたちのことを考えてもらえる、そのように今までワードを入れてきております。

それぞれの課の取組について、学校教育課では「子どもの命を守るための学校の見守り相談活動の充実」、1人を確かに見ていこうということで、相談窓口や相談習慣の取組を大事に考えてまいります、というところがございます。

生涯学習課は、公民館また、文化施設の講座、常設展示等について日常的、本質的な教育文化的活動の一層の充実を図る。そして2番目には自尊感情を育む人権同和教育推進を挙げさせていただきます。

市誌編さん室は、統括会、編さん委員会、部会、部会長会、これらの会は実に今よく動いてくれています。編さん室の一層の機能化を図り、調査執筆を推進してそのように書かしていただきました。

新たに課として位置づけていただきました子ども相談室の取組は、一つ目には支援を要する家庭等への訪問相談等の継続的な支援の充実を挙げ、次に、不登校児童生徒等の居場所を求める子どもへの支援の充実を図るとさせていただきます。

最後に、教育長と教育委員のあり方を書かせていただいて今年度の方針とさせよう申し上げます。

市長

今年度の教育委員会の運営方針ということですので、またよく熟読しておいてもらいたいと思います。このことについて意見がございましたらお出してください。

よろしいでしょうか。では。次にまいります。

(2) 古文書のデジタルアーカイブ化の進捗状況について

市長

続きまして、古文書のデジタルアーカイブ化の進捗状況について説明をお願いします。

生涯学習課長、生涯学習課主査（学芸員）

古文書のデジタルアーカイブ化の進捗状況について説明

市長

磯田道史さんはよくNHKに出てくる方ですが、高遠総合支所には情報共有していますか。

生涯学習課長

日程が決まったところなので、今後、情報共有していく予定です。

市長

磯田さんと伸和コントロールズの社長が同級生で、高遠のいろんな文献資料を集めて勉強しており、新しい発見をどこかで発表したいということであり、非常に楽しみにしています。

古文書は、池上家や岩崎家などたくさんあるけれども、あっちもこっちもやるのではなく、石仏なら石仏に絞っ方が全体像がつかめることもある。高遠石工がどういう生活を送っていたなど、古文書から紐解いていけると面白いと思っています。高遠石工だけでなく良いので、テーマを決めてやっていく方が良いと思います。

生涯学習課長

今年度については、北原家資料の関係を進める予定です。

市長 これは荊口の資料ですか。

生涯学習課主査

荊口村の北原家の資料です。旅稼ぎに出たり、石工の活動を始めたなどの文書があります。

市長

そういう資料は、全部研究が終わってから発表するよりも、こんななものが見つかった、こんなところ調べたらこんなことが出ました、ということを出してもらおうなど、考えてみてください。古文書のアーカイブ化の進捗状況の報告は、いろいろやり方がありますので、これについて何か皆さんから意見をいただければと思います。どうでしょうか。

教育長職務代理者

北原平蔵さんに着目されたのはどこからですか。

生涯学習課主査

空き家バンクへの登録にあたり、北原宅の蔵の整理をしなければいけないということで、ご近

所にお住まいだった方から、図書館に大切な古文書があるので、一括で寄付をした方が良いという話があり、高遠町図書館へ寄付されることになりました。

教育長職務代理者

ありがとうございました。藤澤村も長藤村でもほとんどの集落に石工がいて、今残っている石屋は本当にごくわずかですが、どういうところにそうしたものがあるのかなと思い、お聞きしました。

市長

近所の方が気を回してくれなかったら、そのまま処分されたことも考えられます。

生涯学習課主査

古物商が先にやってくるということがよくあり、外に資料が出てしまうことが多いです。

市長

藤澤郷の村々には、石工や庄屋がいたはずなので、地元の職員にどうなっているか調べさせた方が良いでしょう。気がついたら、どこかへ行ってしまったとにならないようにしてほしい。総合支所と連携して進めてください。

古物商の皆さんの動きはとてもはやく、二束三文で片付けて持って行ってしまうことがあります。大事な資料がなくなっては困るのでお願いします。

教育長

図書館、歴史博物館では古文書講座を開いており、私もその当初のところはわかっていますが、参加をされた方の様子はどうですか。古文書を学ぶこと、続けようとする意欲、その辺はどうですか。

生涯学習課主査

参加されている皆さんは、クチコミで誘いながら参加をいただいています。大変熱心に参加されており、中には、既にかなり読める状態で講座に参加されている方もいて、高遠町図書館で古文書の目録取りのボランティアをされている方もいます。

そういった方々が、さらに関心のありそうな方に声をかけてくださり、中には辞めていかれる方もいらっしゃいますが、年々新しい方が学びに来てくださる状況です。

受講生に話を伺いますと、実際に古文書を持っている方や、自宅の総本家が持っている方もいて、受講生をしながら地域でも活動してもらえるようになってきています。

教育長

地域的にはどうですか。

生涯学習課主査

高遠の古文書研究会のメンバーも多いですが、市内全域、各地区から受講があり、中には岡谷市など市外からもお越し頂いています。

指導主事

地区の役員をやっており、毎年7月に3地区合同で虫干しをしています。今年はぜひ区民の皆さんへ、ぜひ見に来てくださいということで通知しようと話しています。この先どうしていけ

ば良いか悩みの種ですが、大切にしていきたいと思います。

市長

以前に地名調査した時に、そうしたものからデータや資料が集まったことがあります。関心のある人がいる地区は良いですが、関心が無い方が何代も続くと、だんだん虫干しもしなくなり、わからなくなってしまう可能性もあります。とても大事なテーマであり、地域の宝を大事にしていく取組を進めていかないとまずいと思いますが、どうですか。

教育長職務代理者

芝平山の絵図は、保管は歴博で行っており、年に1回だけで7月の15日前後に皆さんで見える機会を設けています。他にもそうした資料はかなりありますか。

生涯学習課主査

そのような形でお預かりしている資料はほとんどなく、芝平山絵図が貴重な例となっています。

市長

芝平山の絵図は有名ですが、他にも地域にとっては大事なものはいっぱいあると思います。それをどのように残していくのか、そのままでは、だんだん増えてくるだけだと思います。それらをデジタル化できれば、市全体で見ることができるとおもいます。

手間はかかりますが、歴史をどこかで無くしてしまう、そういうものが無ければ言い伝えだけになってしまいます。文書に残っているもの、大事なものをきちんと後世へ伝えていく方法を考えた方が良いと思います。

教育委員

デジタル化はどのように分類されているのか、例えば地域別なのか、差し当たってどんなものがあるのか関心があります。北原家は市民に見せられる状態になっているのか、まだまだ先なのか、アーカイブ化の現状はどうですか。

生涯学習課主査

北原家については、写真を撮ったところで止まっているものが多いですが、エクセルデータで整理されている古文書は閲覧できるようになっています。

池上家の資料は点数が多く、作業が途中であり、デジタル画像としてはすぐにご覧いただけないものもあります。古文書の分類は、家単位でまとめるということが慣例となっており、その家で集まった古文書群を分野ごとに整理している状況であり、一覧表で出せるようにするためには、もう少し時間が必要な状況です。

教育委員

古文書に興味をしめす年代は、何歳くらいが一番多いですか。

生涯学習課主査

一番多いのは60代の半ばです。子どもたちも関心を寄せており、中学生では自分でやる方もいます。見せ方によっては、もう少し幅広い世代に関心を持ってもらえることもあると思います。

教育委員

次の世代が、その価値を感じるかどうかの話になると思います。例えば古文書クラブとか授業の中で使ってもらうとか、教育の歴史と地域の歴史をリンクして考えたり、整理できたりすると、興味関心も変わるとおもいます。

学校の授業では、解読されてない古文書をAI技術を使いながら、地域の謎を解くようなことができる、若年層でも増えていくと思います。夏休みに古文書解読講座などがあってもよいかと思います。

市長

各地域にあるものをどうするか、市誌編さん委員にもアイデアを出してもらえばよいと思いますが、どうですか。

市誌編さん室長

市誌編さんを進め、資料が集まってくる中で、今後の活用にあたりデジタル化を進めています。検索できる仕組みが必要であり、背景などを含めてどのようにしていくのか、考えていきたいと思っています。

市長

今すぐにこういう方法でやりましょうという答えが出なくてもよいので、市誌編さんに係りを持っている先生たちの意見を上手に引き出してもらって、方向を決めていければいいと思います。各地区の宝物を無くさないようにするためにどうすればよいか、考えてみてください。

(3) その他

○部活動地域連携について

学校教育課長、指導主事

不登校児童生徒支援について説明

市長

部活動は、どんな形にしても学校現場から徐々に移行する方向ですが、受け皿として総合型スポーツクラブや体育協会を持っている自治体は、準備をしていく必要があります。例えば、市内の中学校は、いろんなクラブを受け皿として一緒に見ていきましょうっていう形だと思いますが、そういう受け皿がない自治体は、伊那市に来ることになりますか。

教育長

基本的にありません。

市長

そんな話があると聞きましたが、それは違うだろうと思っています。受け皿は、それぞれの自治体で整えることを基本とする中で、伊那市の総合型スポーツクラブにもお願いが来ているという話をお聞きしたところです。総合型スポーツクラブは伊那市であり、困ったことは全部伊那市で引き受けます、という話ではないと思います。そこは少し明確にしておく必要があると思います。

指導主事

基本的には伊那市の子どもたちについては伊那市ということになります。特殊な種目、例えば

新体操、フェンシングなどは伊那市だけでは難しいところがあり、市町村間の連携も考え方のひとつと考えられます。

そのような動きがあるのか、あるいはそうしたものが他市町村の中で実際の話が出ているのかについては、総合型スポーツクラブからも様子をお聞きすることになると思います。

中川村は小さい自治体であり、単独でできないことから飯島町と一緒にやるような話を聞いています。

市長

この件について何かご意見ある方お願いします。

教育委員

中学の部活が学校から離されていくなかで、私達の世代では高校に進学するときの内申で評価を上げることにつながるの話がありました。部活動を学校から切り離す場合、内申の評価からも切り離すことになりますか。

指導主事

小学生中学生の指導要領では3学期の最後に評価をすることがありますが、総合的な所見では、学校外での活躍や頑張ったことがあれば、きちんと書いておきましょうということになっています。部活動の移行後は、こういう活動を明記して高校に伝えることは可能だと考えています。学校側も調査表に明記するという仕組みになっているので、その新たな方向でその良さを届けていけるようになると思います。

指導主事

調査書には、部活でなくても、ボランティア活動も含めて一生懸命やってきたことは記載しているので、部活動が学校から離れても一切なしということにはならないと思います。

市長

ありがとうございました。

時間となりましたので、協議は以上としたいと思います

5 閉会

教育次長

ありがとうございました次回は9月を予定しております。

以上をもちまして総合教育会議を終了します。お疲れ様でした。